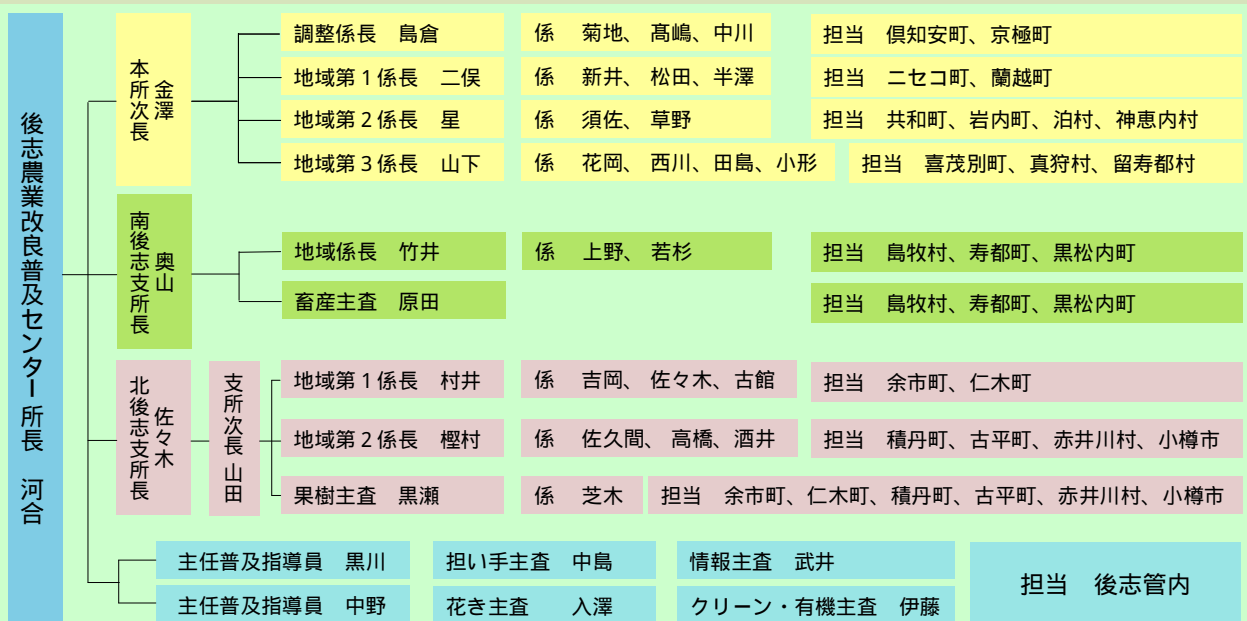


H21 年度の後志農業改良普及センター活動体制

発行：後志農業改良普及センター

農業改良普及センターは、平成 18 年 4 月に後志支庁管内一つの普及センターとなりました。本所を倶知安町に置き、支所を余市町に北後志支所、黒松内町に南後志支所と 2 か所に配置し、本所・支所体制で後志農業を支援する効率的な普及活動と調査研究に取り組んでいます。

普及センターは、これまで地域や農家の皆さんとともに歩む事を基本理念に、栽培技術指導一辺倒ではなく地域の経営経済的な課題解決、重点対象地区の選定と活動内容の合意形成、その結果を地域全体へ波及することにウエイトを傾斜しました。もちろん、農業者の皆様から寄せられる色々な要請にも引き続き応えて参りますが、地域づくりに向けた対象重視・提案型普及活動を行い、地域の皆様に喜ばれる普及活動を目指しています。



H21 年度の活動方針、H20 年度の一般課題の成果紹介

基本的な活動は、普及活動計画書に取りまとめで公表しています。内容については、農業の担い手の育成・確保と農村地域の振興、地域生産構造の改善と食の安全・安心、及び環境と調和した農業生産であり、地域の皆様のニーズに応えるために、また、今日的な農政に対応する農業経営や地域農業の仕組みづくりのため、「Hokkaido 営農ナビ」等の経営シミュレーションソフトも活用しながら支援して成果が上がっています。

平成 20 年度に取り組んだ一般活動の成果についてお知らせします。皆様には、今後とも地域の普及センターを気軽に活用していただくようお願い申し上げます。

馬鈴しょ中心空洞低減対策からみえてきた施肥改善方向！【京極町】 担当：本所調整係

J A ようていの馬鈴しょは、平成 17 年に中心空洞の多発で品質低下がみられ、京極町でも同様に要因解明と栽培方法改善対策が急務となりました。

1 活動のねらい

- 馬鈴しょ中心空洞発生実態の解明
- 発生要因の解析及び栽培方法の改善
- 施肥窒素の適正化による中心空洞及び品質向上

2 中心空洞調査から窒素施肥改善の成果を得た！

中心空洞の発生は 0.4 % と極少なかったが、窒素施肥量が多いほど、規格内収量が低下することが明らかになりました（図 1）。

また、適正な窒素施肥を推進した結果、窒素施肥の適正化が図られました。

（対象農家 10 戸中 適正窒素施肥農家 3 戸 8 戸）

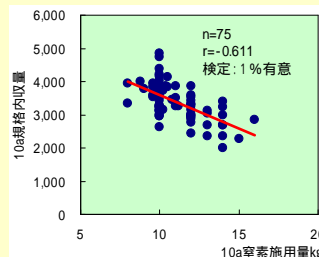


図 1 窒素施肥量と規格内収量の関係
(過剰な窒素が規格内収量を低下させる)

3 さらにリン酸施肥の過剰傾向が見えてきた！

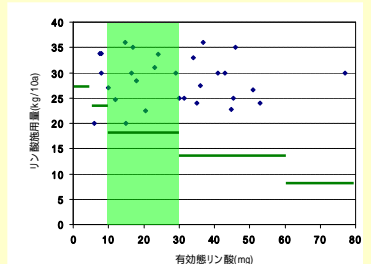


図 2 有効態リン酸と施肥リン酸の関係
(緑線：施肥基準
ほとんどが施肥基準以上施用)

4 今後の課題

実態調査の結果、リン酸が過剰に施用されていることが明らかになり、土壌診断結果に基づく適正施肥（特にリン酸）を推進するとともに肥料コスト削減を図ります。

アピオス栽培による青年組織の活性化【ニセコ町】 担当：本所地域第1係

ニセコ町農業青年会は直売活動による消費者交流や町行事への参加など活発に活動していますが、近年、目新しい活動はなく、組織の活性化が課題となっていました。

1 活動のねらい

会員相互の情報交換や仲間作り
青年会活動PRと地域との共有

2 青年会が一体となった活動を実施

平成19年よりアピオス栽培に取り組み、計画活動、先進地調査の提案、栽培支援により青年会は役割分担による計画的な活動を実施しました。



アピオスは北アメリカ原産で地下茎にできる塊茎を食用とするマメ科のつる性植物です。

3 PR活動による地域との共有化を実現

役場との連携によるPR活動支援により、青年会が活動報告会の開催やアピオスのPRを行いました。

地元ホテルからは「また、来年も販売して欲しい！」

ニセコ高校からは「青年会と連携した取り組みを検討したい！」といった声上がり、青年会活動が地域と共有されるとともに、青年の活動意欲が高まりました。



アピオス収穫のようす

4 今後の課題

青年会が一体となり、やりがいのある活動の提案
地域との連携支援

秋どり大玉すいかの栽培方法確立を目指して！【共和町】 担当：本所地域第2係

共和町の大玉すいかは、市場から盛夏が過ぎた8月下旬以降も出荷が望まれ、平成18年から本格的に導入されました。しかし、導入後の年数が浅いため、品質にバラツキがあり、秋どり作型に適した栽培方法の確立が課題となっていました。

1 活動のねらい

秋どり作型に適した栽培方法確立と地域への定着。

2 安定生産技術の検証！

実態調査や実証試験から栽培のポイントを整理し、秋どり作型に適した栽培方法を検証しました。併せて、巡回指導や講習会等を通じ、栽培技術の普及を図りました。



収穫間近、肥大良好！

3 産地の評価が向上！

施肥や水管理等、栽培のポイントが生産者に浸透し、市場ニーズの高いすいか生産に繋がっています。さらに、生産者からは産地の将来に向けて重要な作型だという声が聞かれ、年々、面積と戸数が増加しています。

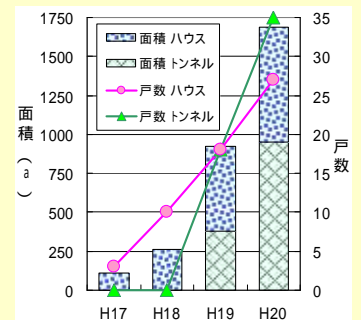


図1 面積と戸数の推移

4 今後の課題

作型にあわせた適正な着果数およびかん水方法を継続検討します。

ホワイトアスパラ産地の強化！【喜茂別町】 担当：本所地域第3係

喜茂別町は古くからホワイトアスパラの産地として知られていますが、収穫の手間や先端着色、さび症の発生による品質低下が以前から課題になっており、改善技術が求められていました。

1 活動のねらい

収穫作業性の改善と先端着色減少に向けたシート被覆栽培技術の推進
「さび症」の原因究明とその対策技術の確立



遮光シート被覆

2 作業性改善&製品率向上！

培土を遮光シートでべたがけ被覆するヨーロッパ方式を導入し、通常1日2回の収穫が1回で済むようになりました。さらに先端着色がほとんど発生せず、品質が大幅にアップしました。

3 さび症原因解明で改善へワンステップ！

原因菌特定や培土の時期、土壌条件による被害程度の差などの調査を通じ、「さび症」発生の原因解明に取り組んでいます。

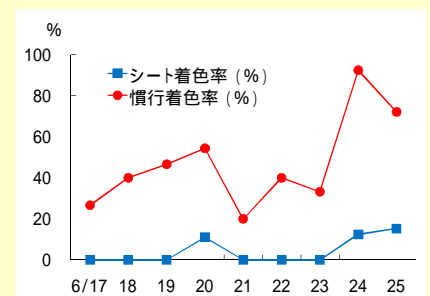


図1 先端着色発生率の推移

4 今後の課題

収穫時に効率よく遮光シートを持ち上げる方法が確立すれば、更なる生産性向上が期待できます。
さび症対策の具体的な提案を進めます。

地域とともに未来ある子供たちの農業体験を応援！【黒松内町】 担当：南後志支所地域係

黒松内町では、小学生や親子を対象に農業体験農園を行っています。普及センターでは、役場や小学校と連携し、「食育」に取り組んでいます。

1 活動のねらい

農業体験農園を活用し、児童や親子が「農作業体験」を行い、「食」への関心を高めてもらう。



植え付け作業の風景

2 体験農園

のべ347名参加！！

小学生だけではなく、中学生、親子、幼児園児など6団体が馬鈴しょ、大豆、スイートコーン、にんじんなどの作物を植え付け、収穫作業に挑戦。また、中学生と養護学校の交流学习にも活用しました。

3 収穫物は町内各所で有効活用！！

学校給食での利用、親子料理学習、授業(総合学習)で味噌、豆腐づくりなどにも取り入れられています。その他、幼児を対象とした料理教室にも利用されました。



たくさん採れてみんな笑顔

4 今後の課題

生育過程を児童の学習に取り入れるための検討
近隣農家との連携強化



にんじん採ったど

女性の起業化活動の推進！【余市町】 担当：北後志支所地域第1係

農産物の価格低迷により農業所得が減少している中、起業化活動への支援が求められています。余市町梅川こだわりグループは、加工販売活動を農業経営の一部門として位置づける上で、販路拡大や経営管理能力の向上が課題となっていました。

1 活動のねらい

漬物加工販売体制を確立し、販路を拡大する。
起業化簿記記帳を推進し、経営管理能力を向上する。

2 漬物の販路が拡大！

顧客リストの整備やDMの作成を提案したことにより、漬物の受注販売が可能になり、安定的な販路を得ることができました。



札幌でのイベント販売

3 起業化簿記の記帳が定着し、販売戦略を樹立・実践！

起業化簿記記帳の導入推進により、原価計算に基づいた商談や売上げが低い加工品目の利用法を検討するなど販売戦略

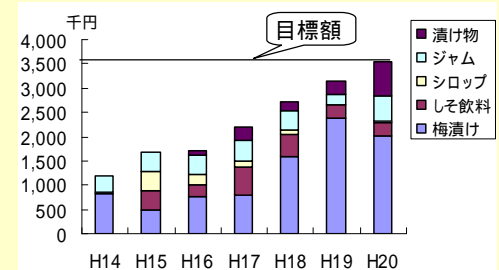


図1 売上げの推移

の樹立・実践が可能になりました。また、売上額が当初のグループ目標を達成しました。

4 今後の課題

アップルパイの加工販売体制の確立
新商品(洋梨ゼリー他)の開発
経営の継続性の確保にむけた法人化

良苗確保でおいしいいちごを安定供給！【小樽市】 担当：北後志支所地域第2係

いちご栽培においては無病の良苗を確保することが重要な技術の一つです。栽培農家では専用の採苗ほ場を設置していますが、確保できる苗本数が十分ではありませんでした。そこで、地域の先進事例をヒントにして、いちごの採苗改善に取り組みました。

1 活動のねらい

ハウス・トンネル等を利用した育苗を普及する。
かん水、肥培管理等の採苗技術向上を図る。

2 新たな育苗方法の普及！

平成16年に2戸で行われていた採苗方法(もみから採苗、ハウス利用)の導入を地域の農家に勧め、指導した結果、平成20年度には5戸での取り組みとなっています。



ハウス利用の採苗

3 採苗技術が向上！

当初は苗床での病害発生やかん水不足等で採苗本数が伸び悩みましたが、農家の努力と普及センターの指導で採苗本数の向上と安定化が図られました。



採苗本数がアップ！

「けんたろう」の採苗本数(1親株あたり)

15~20本

29.8本

(露地育苗平均)

(取り組み農家平均)

採苗本数が大幅にアップ！

4 今後の課題

越冬後の肥培管理技術向上による収量アップ。

本所・支所一丸で肥料コスト高騰対策の活動展開！

世界情勢の影響を受け、平成 20 肥料年度から肥料価格が高騰しています。そこで普及センターでは、効率的な施肥について考え、コスト低減と収量の双方を実現していくため、次の取り組みを行いました。

- 1 後志管内の代表的な **21 営農類型**について影響度を推計！
- 2 専門部会による品目別コスト低減方策を作成！（24 品目 59 作型）
- 3 農業者・関係機関にコスト低減技術を提案！ 一部実証！
講習会等 102 回、参加者は 1,862 人を数えました。

会場からは『土壌診断の実施間隔は？』『火山性土・リン酸吸収係数という言葉に惑わされていた』『かぼちゃのマルチ幅施肥技術は以前から実施しているが問題無い。雑草の生育も抑えられるよ』等質問や意見が交わされました。

これらの活動を受け、21 年は提案した技術を地域で実証し、22 年度の営農に役立てていただくよう取り組んでいます。



ブロッコリーの作条施肥実証（H20 共和）

主な実証ほ設置計画

- ・馬鈴しょの適正施肥(窒素・リン酸)の実証
 - ・スイートコーンのロング肥料効果の実証
 - ・かぼちゃのマルチ幅施肥の実証
 - ・ブロッコリーの施肥方法・適正施肥の実証
 - ・サイレージ用とうもろこしの適正施肥(窒素)の実証
- 等 8 品目 13 課題 28 力所

関係機関・農業者の皆様の協力をお願いします。



サイレージ用とうもろこし適正施肥の実証（H21 俱知安）

高品質な果実生産と顔の見える関係づくりで、果樹産地ブランド力の向上！

本年度から「フルーツランドしりべしグレードアップ事業」（支庁独自事業 H21～23）が始まりました。

産地の活性化を図るため、余市町では「西洋なし」と「プルーン」、仁木町では「さくらんぼ」と「プルーン」について、生産者・農業団体・行政・農業改良普及センターが一体となって、道内最大の果樹産地を生かした新たな取り組みをスタートしています。

取り組み内容は、安全・安心・高品質な果実の生産拡大と需要拡大を柱に、生産部門では、YES!clean の拡大・着果調節技術などによる品質・価格の向上を目指し、また、需要部門では、野菜ソムリエ・量販店・観光協会等との連携を深め、品種特性や美味しい食べ頃を紹介し需要拡大につなげます。

生産・消費の両面から産地ブランド力の向上が期待されます。



栽培講習で品質の向上を！

後志の有機農業の発展に向けて！ まずは生産者交流と情報の提供を！

後志の有機農業(JAS 規格に基づく有機農業)は、真狩村 3 戸、喜茂別町 3 戸、共和町 2 戸、積丹町 1 戸、仁木町 1 戸、赤井川村で 2 戸の計 12 戸の生産者が実践しています。後志農業改良普及センターでは、各地域係に担当者を配置し、有機農業に取り組んでいる生産者の支援を始めました。

20 年度は、意見交換会、研修会等を実施し、管内の有機農業生産者の交流の場を設けました。生産者からは、「有機農産物の PR」、「生産者同士の交流」、「各種情報提供」などの要望が挙げられました。今後、このような要望を踏まえ、ホームページによる PR、FAX 情報の提供、現地研修会、意見交換会等を行う予定です。



有機農業意見交換会風景

後志農業改良普及センター本所

住所 虻田郡俱知安町旭 57-1
TEL 0136-22-1072
FAX 0136-22-4744
E-MAIL xsbsnak@agri.pref.hokkaido.jp

南後志支所

住所 寿都郡黒松内町字黒松内 309
TEL 0136-72-3161
FAX 0136-72-3456
E-MAIL xsbsmin@agri.pref.hokkaido.jp

北後志支所

住所 余市郡余市町朝日町 11 番地 1
TEL 0135-22-5135
FAX 0135-22-5987
E-MAIL xsbskit@agri.pref.hokkaido.jp